

2012
August

8月

高校版

Volume 3

VIEW21



特集

環境変化に立ち向かう 「主体性」を育む

指導変革の軌跡

小中高連携 ◎長野県飯山北高校
課題研究 ◎茨城県・私立清真学園高校・中学校

30代教師の
「転んでも起きる!」

説明し過ぎの授業から、生徒が主役の「考えさせる」授業へ
北海道札幌北高校 ◎鶴間乃笛子

新課程の
ファースト・ステップ

教科そのものの魅力で、主体的な学びに生徒を導く

ンセルするなら材料費だけでも払つてほしい」と私が説明したのですが、

いつこうに相手が受け入れようとしていることがありました。最後はけんかのような状態になりましたが、その原因が、会社にあつたのか、その国の特性にあつたのかは一概には言えません。

このケースでは1年後、相手と実際に対面する機会がありました。電話やメールではあれば紛糾していいたのに、会つて話すと対策を考えてくれていたことが分かり、次の話が出来たのです。面白いですよね。本当に信頼できる相手かどうかは、ま

だ分かりませんが……。

タカラトミーでは、80以上の国や地域で「ペイブレード」を販売しているが、インドや中近東の売り上げは全体から見ればまだまだ。

樺島 今は売り上げが少なくても、10年後には10倍になるはずだと信じています。仕事を楽しくするために不確実な中でも前向きに想像する力が大切です。玩具市場の成長は、国が豊かになることと密接に関連しています。売り上げだけでなく、その国が今後どう発展していくのかを想像することが、日々の仕事を楽しむ進める活力になるのです。

4年半の海外生活では、文化の違いを感じることがたくさんありました。日本では考えられないことが、嘘をついたり物を盗んだりする人が悪いという意識が低い人もいます。その点、日本人は嘘をつかず、またその仕事ぶりは眞面目で丁寧だと評価が高いので、責任ある仕事を任されることも多くありました。

帰国後、海外で培った英語力を生かすために、貿易事務を募集していた精密機器メーカーのメトロールに応募しました。現在は、中国と台湾にある子会社やインドにある支店と、東京本社のつなぎ役をしています。支店や子会社の開設に必要な書類の準備、アジア圏の顧客からの注文や問い合わせへの回答、オンラインによる海外への送金やシステムの管理などを本社で担当しています。

憧れの実現のために海外へ
帰国後は貿易業務に従事
薬科大で分子細胞生物学を学んだ
という箕輪さん。海外とのかかわり

「自分の意見を持つだけでなく、相手を受け入れる姿勢も必要」
箕輪こづえさん

ケース4 株式会社メトロール



を深めた契機は、20代半ばで挑戦したニュージーランド留学だった。
箕輪 高校の先生が自分の海外での体験をよく話してくれたのですが、その影響で私も海外に憧れを抱くよ

うになりました。修士課程を修了し、体外診断薬(*)の会社に4年間勤めた後、夢を実現させるためにニュージーランドに渡りました。語学学校で英語を学び、修了後はバッカパッカーズのゲストハウスで働きました。

うになりました。修士課程を修了し、体外診断薬(*)の会社に4年間勤めた後、夢を実現させるためにニュージーランドに渡りました。語学学校で英語を学び、修了後はバッカパッカーズのゲストハウスで働きました。

箕輪こづえ（みのわ・こづえ）さん 海外業務担当。東京薬科大大学院修士課程を修了し、体外診断薬の会社に勤務後、メトロールへ。社会人歴10年目。



箕輪 日本人相手なら、ある程度指示を出せば、後は言わずもがなで業務を進めてくれるところを、現地人スタッフは細部まで指示を出さない」と動いてくれないことがあります。また、彼らは日本人にはない強い要求や自己主張をしてくることもあります。台湾の子会社の立ち上げの際、現地人スタッフを日本の本社に呼んで、仕事の流れを勉強してもらいました。製品が出来るまでどの程度の時間が必要なのかといったこともき

*血液や尿便などを材料として、体内の異常や変化を検査する試薬の総称。

ちんと説明したのですが、いざ業務が始まると、本社が対応できないスピード納品を要求するのです。日本人なら恐縮してお願いしますというような場面なのに、当然のように主張するので驚きました。先方としては、本社の事情は知っているけれども、強く主張するべきところは主張するというスタンスだったのだと思ふ。うことも私の仕事です。

ITの進歩により、世界中からオンラインで送金できるようになつた。便利な半面、リスクも少なくない。

箕輪 デジタル面でも、グローバル化の影響を感じます。海外への送金もかつては書面で行つていました。が、今は全てオンラインです。時間・コストの両面でメリットは大きいのですが、その半面、大変な部分も増えました。頻繁に管理上のパスワードを更新しなければならず、複数の口座を管理していると、パスワード

大切なのは相手を受け入れその上で主張すること

グローバルな仕事を行う上で必要とされる力や、心構えは、どのようなものだと箕輪さんは考えているのだろうか。

箕輪 もちろん、英語力は必須です。高校時代、私は英語の勉強が苦手でした。英語が大好きになつたのは、ニュージーランドに留学してからです。現地の人々に触れる中で、この人たちともっと会話を楽しみたい、もっと理解したいと思うようになつ

もそれだけ増えるため、管理が煩雑になるのです。パスワードをなくしてしまふと決済できなくなり、復旧まで大幅な時間のロスが発生して、取引先に迷惑をかけてしまいます。そのような事故を未然に防ぐためにも、強く主張するべきところは主張するというスタンスだったのだと思ふ。うことも私の仕事です。

は、上司の指示を待つだけではなく、どのようなり스크があるのかを常日頃から自分で意識し、疑問に感じたことはその都度周りの社員と相談しながら業務に当たることが大切です。

たのです。私にとって英語は、人と触れ合い、理解し合うためのツールにほかりません。そして、英語力以上に大切なのは、コミュニケーション力です。ニュージーランドの語学学校では、英語があまり話せないフランス人が、上手にコミュニケーションを取っていました。また、ニュージーランドでは、小学生くらいの子どもでも自分の考え方を持つていて、大人に対してもしっかりと自らの前に、大切なことがある」と

だが箕輪さんは、「自分を主張するには不可欠なのだと思いました。うした様子を見て、自分の意見を持ち、それをしつかり相手に伝えようとする意志を持つことが、さまざまな人とコミュニケーションを取るためには不可欠なのだと思いました。」だが箕輪さんは、「自分を主張する前に、大切なことがある」と言う。

箕輪 それは、相手の文化や考え方を受け入れようとする姿勢です。日々の意見交換を通じて、お互いの意見を尊重し合って、より良い結果を出すことができるようになります。

英語もデジタルも それを使って何が出来るかが重要

株式会社メトロール 代表取締役
まつしまくじ
松橋卓司さん

近年、業務の多くがデジタル化され、ルーチンワークは全て簡単に出来るようになりました。また、誰でも簡単に情報を入手できるようになり、情報をたくさん持っているということ自体には価値がなくなりました。これからはインターネットを使って答えを探す人ではなく、集めた情報を使って何をしたらよいのか、どういうものを作ったらよいのかということを考えられる人が重視されるはずです。すなわち、さまざまな情報を概念化する力です。概念化するためには、個人としての生き様が必要です。それは正義感でもいいし、コンプレックスであってもいい。自分なりの価値観がなければ、創造性を發揮することは出来ません。

また、グローバルな社会では、アイデンティティーを確立しなければ相手にされません。人まねではなく、自信を持って自分の価値を提示できる人、正直、真面目といった日本人の美德を体现できる人が国際社会では尊敬されるのです。

そして、何よりも大切なのは、ミッション意識を持つことです。会社の目標や課題を自分のやりがいとして真正面から受け止める姿勢がなければ、いくら英語が話せても、コンピューターが使えて、組織の一員として活躍することは出来ません。英語もデジタルもツールの1つに過ぎず、それを使って何が出来るかということが重要なのです。

本人はよく発信力が弱いと言われますが、自己主張できたとしても、相手のことを知らなければ本当のコミュニケーションは成り立ちません。インドで支店を開くにしても、私たちがインドの人たちの生活スタイルや労働観を知らなければ、顧客からも現地スタッフからも受け入れ

られないでしょう。グローバル社会で大切なのは、自分たちの意見を主張するだけではなく、相手の文化や考え方を受け入れることです。その上で、こちらが主張すべきところは主張するというように、互いの接点や妥協点を見いだししていくことが必要だと思います。

「仕事がしやすい人の要件は日本も海外も実は同じだ」 石丸秀行さん

ケース5 日本オラクル株式会社



何時間かかつても自分の仕事はやるしかない

世界を代表する情報・通信企業であるオラクル。その日本法人である日本オラクルは、代表的なグローバル企業の1つといえるだろう。IT産業という国際的に普及・進化する領域で働く石丸さんだが、入社当初は英語で大いに苦労したという。

石丸 入社後3年間は、出荷前の製品の品質保証を行う部門にいまし

た。外資系企業なので、海外とやりとりすることもあるだろうと思い、海外ドラマを字幕なしで見るなど、内定後は地道に英語の勉強をしていましたが、入社後は英語で随分苦労しました。

今でも鮮明に覚えているのですが、初めて英文で問い合わせのメールを作成した時、わずか3行くらいの英文を書くのに1時間もかかりました。英語でメールを書いた経験がないので、書き始めが「Hi」なのか、

輩など、周囲の人たちの力を借りながら、期限内に自分が出来る精いっぱいのものをつくりました。

4年目からは現在の部署に異動。ここでの仕事は、出荷後の製品の不具合に対し、お客様の環境に応じた解決策を提供することだ。

石丸 日本以外にもアメリカ、イン

ドなどに同様の仕事を行うセンターがありますが、これは時差に左右されず、グループ全体で世界各国全のお客様に対応できるようにするためにです。したがって、業務の7、8割は英語を使ったものです。多くの問い合わせはメールで来ますが、緊

急度が高くなると電話が直接掛かってきます。異動したばかりの頃は「掛かってこないでくれ！」と願っていたものです。

大切なのは信頼関係をどうやって構築するか

英語のスキルが上がるほど、英語そのものはあくまでツールでしかな

く、円滑なコミュニケーションのためには、もっと別の力が必要だと分かってきたと、石丸さんは語る。

石丸 外国人スタッフと円滑にコミュニケーションをするために必要

「Hi, All」「Hi, Expert」なのか、そこから悩んでしまったのです。

また、新製品に関する5時間の説明映像を文書にまとめる仕事を任された時は、説明するインド人の英語がほとんど聞き取れず、絶望的な気持ちになりました。でも、この仕事を担当しているのは自分で。だから、やるしかないと思いました。

先輩など、周囲の人たちの力を借りながら、期限内に自分が出来る精いっぱいのものをつくりました。

2年目になつて、ここでの仕事にようやく慣れてきたところです。今でも通勤時間などを使って英語の勉強をしていますが、入社時から比べると、英語力はそれなりに向上したと思います。やはり語学力は、使用者する頻度と必要性によつて伸びが違つてきますね。



石丸秀行（いしまる・しゅうこう）さん テクノロジー製品事業統括本部技術本部。エンジニア。電気通信大学院修士課程修了。社会人歴5年目。